昭和大学大学院秋季修了式

令和元年度昭和大学大学院秋季修了式が9月26日、上條記念館で挙行された。

医学研究科17名、歯学研究科1名、薬学研究科3名、保健医療学研究科博士前期課程9名に久光正学長から学位記が授与された。

久光学長は告辞で「大学院の課程を修了しても研究を継続して新知見を重ねることが大切であり、今後一層の活躍を期待しています」と述べた。

各研究科長の挨拶では、祝辞とともに今後の研究等のあり方について講話があった。

昭和大学大学院秋季入学式

令和元年度昭和大学大学院秋季入学式が10月3日、上條記念館で挙行された。

同式で医学研究科4名、薬学研究科3名、保健医療学研究科博士前期課程7名が入学した。今年度は春季に医学研究科52名、歯学研究科27名、薬学研究科11名、保健医療学研究科博士前期課程8名と博士後期課程1名が入学しており、春季・秋季あわせて113名が大学院で新たなスタートを切った。

久光正学長は告辞で「大学院は既知なるものの学修を積み上げるだけでなく、未知なるものを研究し解き明かしていくことが求められます。大いに研究し価値ある成果が生まれることを期待します」と述べた。

また、各研究科長より、研究の進め方等の挨拶があった。

久光正学長

笹間雄志さん最優秀賞 受賞

―先端歯学スクール2019―

先端歯学スクール2019が8月27日～28日、大阪大学で開催され、笹間雄志さん（大学院歯学研究科4年）が、最優秀賞を受賞した。

同スクールは、国公立大学歯学部長・病院長会議と密接な連携をもつ「先端歯学国際教育研究ネットワーク」が毎年開催するもので、歯科系大学の卓越した能力をもつ大学院生を対象に、歯学分野の未来を担う若手研究者を育成することを目的としている。

ただ一人私立大学からの参加となった笹間さんは、並み居る全国国公立大学の大学院生を抑えて最優秀賞受賞者に選ばれた。

笠間さんが発表した研究は、軟骨細胞の増殖制御にミトコンドリアにおけるイオウ（硫黄）原子を介したエネルギー代謝（呼吸）システムが関与していることを発見したもので、生体の発生制御機構の研究分野に全く新しい概念を提示した。

笹間さんの研究を直接指導した吉村健太郎講師（歯学部口腔生化学講座）、宮本洋一准教授（同）および上條竜太郎教授（同）も今回の受賞に喜びの表情を見せた。

大塩葵さんSCRP日本代表選抜大会 入賞

第25回スチューデント・クリニシャン・リサーチ・プログラム（SCRP）日本代表選抜大会が8月23日、日本歯科医師会館で開催され、大塩葵さん（歯学部5年）が基礎部門の2位に入賞した。

SCRPは、日本歯科医師会が歯学生の研究意欲の向上と歯科医療の発展を担う国際感覚に優れた歯学生の育成を目的とし、日本代表選抜大会を開催している。世界39カ国で選抜大会が開催されており、最優秀成績者はワシントンD.C.で開催される国際歯科研究学会米国部会（AADR）学術大会に派遣され、世界各国の代表とともに発表を行う。

大塩さんは、題名「歯周病性骨吸収および破骨細胞分化に対するオゾンジェル（※）の効果」の発表が評価され、表彰された。

同研究は歯周病によってもたらされる歯槽骨破壊に対して、オゾンジェル（※）が有意な抑制効果を発揮したことを明らかにしている。

※オゾンジェル：グリセリン中にオゾンを溶解させ、オゾンの持つ殺菌作用や骨形成保進作用を長期間保存し、かつ適用範囲を拡大したもの。

大塩葵さんのコメント

このたび、私はSCRP日本代表選抜大会にて、ポスター発表し、基礎部門の2位に入賞いたしました。

慣れない実験やデータの整理などで研究室の先生方には大変ご迷惑をおかけし、自分の勉強不足を恥じる日々でしたが、今回このような賞をいただくことができ、驚きとともに感謝の気持ちでいっぱいです。

全国から歯学生が集まる高いレベルの大会で当日は緊張感がありましたが、さまざまなテーマの発表を聴くことができ、大変勉強になりました。

また、審査後には他大学の学生と交流もできたため、非常に充実した時間を過ごすことができました。その時も多くの学生さんや先生方が研究内容について熱心に質問してくださり、とても印象深かったです。

今後も研究に携わる機会がありましたら、このような経験を活かして根気強く頑張っていきたいと思っております。

最後に、今回の研究発表にご指導賜りました、口腔生化学講座の宮本先生、須澤先生、山田先生、吉村先生、笹先生に心より感謝申し上げます。

落合翔さん優秀若手研究者賞 受賞

―フォーラム2019：衛生薬学・環境トキシコロジー―

フォーラム2019：衛生薬学・環境トキシコロジーが8月31日～9月1日、京都薬科大学で開催され、落合翔さん（大学院薬学研究科2年）が、優秀若手研究者賞を受賞した。

同フォーラムは、日本薬学会の環境・衛生部会による学術年会であり、疾病予防や健康維持・増進に関する学術・研究の推進に目標を置き、関連する基礎および応用分野の研究者の研究発表、知識の交換ならびに研究者の連携の場を提供することを目的とした同部会の活動の一つである。

落合さんは題名「化学物質による炎症へのプロスタグランジン合成酵素の機能解析」の発表が評価され表彰された。

落合翔さんのコメント

本研究は、炎症反応において重要な役割を担うプロスタグランジンの最終合成酵素に着目し、化学物質による炎症反応の発現機構の解析から、さまざまな炎症性疾患の治療法に繋げていくことを目的としています。

高分解能を示す質量分析装置LC-MS/MSを用いた脂質分析をはじめ当研究室が強みとする技術を用い、研究を進めてきましたが、このような形で評価していただき大変嬉しく思います。

研究発表を行うにあたりご指導をいただきました衛生薬学部門の原俊太郎教授、実験を進めるにあたりご助言をいただきました先生方、研究生活を支えて下さった皆さまに心より感謝申し上げます。今回の受賞を励みとし、衛生薬学に重きをおいた基礎研究を通じ、医療に貢献できるよう今後も邁進していく所存です。

（左）原教授、（右）落合さん

医学部白衣授与式

令和元年度医学部白衣授与式が9月27日、上條記念館で執り行われた。

同式は、臨床実習を目前に控えた医学部4年生が倫理観や患者さんに対する思いやりの心を再認識して、医師を目指す者としての心構えを新たにする目的で実施している。

小川良雄医学部長は告辞で「本学医学部の7つの附属病院における少人数制の臨床実習教育は日本医学教育評価機構から高い評価を得ており、この恵まれた環境の中で、これまで学んできた知識や技術を駆使して臨床実習に全力で取り組んでほしい」と述べた。

4年生107名は教員から授与された真新しい白衣に袖を通した。また、臨床研修医代表から、患者さんとの関わり方などの講話を受けた。

シリーラトシバウォング講師・マイヤース講師 受賞

―第22回日本医学英語教育学会学術集会―

第22回日本医学英語教育学会学術集会が8月3日～4日、中野サンプラザで開催され、クリス シーラトシバウォング講師（医学部医学教育学講座）が第15回植村研一賞、マイケル マイヤース講師（国際交流センター）が同奨励賞を受賞した。

同学会は医学英語に関する研究を推進し、医学英語教育の向上を図ることを目的としており、日本医学英語検定試験を実施するなど日本の医学英語教育の普及の一翼を担っている。

創設者である植村研一氏の名を冠した同賞は、毎年の学術集会における一般演題について、その学術的内容と発表技術の両面で総合的に最も優れた発表を行った演者に対して授与され、翌年の学術集会の会期中に授賞式を行っている。

シーラトシバウォング講師は「Setting up for success: A workshop for Japanese medical students in preparation for overseas clinicalelectives:」、マイヤース講師は「Study-abroad program for first-year students at Japanese comprehensive medical university」の発表がそれぞれ評価され受賞に至った。

（左）マイヤース講師
（右）シーラトシバウォング講師